

# 同志社大学

## 2009年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2010年 3月 15日提出

所 属	職 名	氏 名
文学部	准教授	菅原 真理子
研 究 題 目	英語の語強勢に関する研究	
研 究 成 果 の 概 要	<p>今年度は、2005年より続けている英語の語レベルの韻律（語強勢や韻律語、フットに関する研究）成果を論文にまとめることに徹し、以下の論文を Cambridge University Press より刊行されているジャーナル『Phonology』に発表した。</p> <p>Sugahara, M. &amp; Turk, A. (2009). Durational correlates of English sublexical constituent structure. <i>Phonology</i> 26. 477-524.</p> <p>また、現在進行形で、Equinox より出版予定の本『Prosody Matter: Essays in Honor of Elisabeth Selkirk』を他の3人の編集者と共に編集集中で、そこにも以下の論文を掲載予定で執筆をすすめている。</p> <p>Sugahara, M. (to appear). Prosodic Word prominence and its phonetic correlates (tentative title). In Borowsky, Kawahara, Shinya &amp; Sugahara (eds.) <i>Prosody Matters: Essays in Honor of Lisa Selkirk</i>. London: Equinox.</p>	